

平成25年度 骨子法を活用した選択科目における課題解決策問題について（農業土木）

I、問題、農業土木分野

「アベノミクス」では、農業を成長戦略の柱として位置づけ、農家の所得を倍増させる目標を掲げた。そのためには、農業所得や農産物の・食品の輸出倍増させる必要がある。

これらを達成するための課題を3つ挙げその解決の方向性を記述せよ。

1、問題に対する視点

成長戦略に位置づけられた農業分野での施策に対して、農業土木分野ではどのような役割が必要なのかという視点で解決策を考える。

2、論文の作成方法

骨子法を活用し、課題から解決策までブレないようにする。なお解決策は、最低でも3つは記述したい。

3、解決策（骨子法）

（1）その1

① 課題

担い手への農地集積

② 課題解決上の問題点

農業に生きる担い手への農地集約を進めるために効率的営農体制への支援。

③ 解決の方向性

- ・生産性向上に向けた農地の整備促進。
- ・老朽化した水利施設の長寿命化等で生産性低下を防止。
- ・災害に強い農地の創出。

④ 具体策

- ・農地集約に向けて、水田・畑地の大区画化、用水路のパイプライン化、地下かんがい施設の整備。
- ・老朽化した水利施設・ため池等の機能診断や補修等の長寿命化を推進。
- ・水利施設・ため池等の耐震対策や排水対策の推進。

（2）その2

① 課題

耕作放棄地解消の推進

② 課題解決上の問題点

増え続ける耕作放棄地の予防策の展開がなされていない。

③ 解決の方向性

- ・受けて不在の農地の中間的受け皿づくり。
- ・耕作放棄地の再生利用促進策の創造

。

④ 具体策

- ・分散し錯綜した農地利用を整理した上で、受け手が見つからない農地を中間管理機構に借り受け、集約化した農地を貸し付ける。
- ・生産基盤整備による発生の予防及び再生利用の促進を図る。

(3) その3

① 課題

変化に対応できる生産構造の創出

③ 解決の方向性

- ・規模拡大や機械化に対応できる生産構造の整備

④ 具体策

- ・施設園芸の団地化と規模拡大による大規模化・省エネ化の推進により燃油高騰にも耐えられる構造の創出。
 - ・機械化一貫体系の確立を図るため、農作業のロボット化による低コスト・省力化の推進
- 。

4、背景

上記のロジックを展開するうえでの背景をまとめて、論文の冒頭の現状分析から解決策までのブレをなくする。

1) 意欲ある担い手は増えているものの農地の集約化が進まず点在化した農地が規模拡大のネックとなっている。

2) 耕作放棄地は右肩上がりで増え続けている。具体的な予防策を早急に立てることに加えて、生産拡大には、放置されてきた耕作地の再利用は必須である。

3) 農業者の高齢化や担い手不足は深刻な状況にあり、それを補うため、農作業の機械化等は国産農産物の競争力強化になくてはならないものである。

以上、骨子法により論文の骨格を作ったうえで、実際の論文に取り掛ろう。
次回は、回答案。